

## 辰巳用水の関連遺構

つっちょうずえんしょうぐらあと

### 土清水塩硝蔵跡

涌波町付近には、万治元年(1658)に加賀藩が設置した土清水塩硝蔵跡があります。これは辰巳用水を動力源として原料を粉碎・混合した黒色火薬製造施設で、発掘調査により中心施設を囲んでいた堀や火薬原料を貯蔵していた硝石御土蔵の跡などが見つかりました。辰巳用水の関連遺構として、平成25年3月に敷地の一部が国史跡に追加指定されました。



硝石御土蔵の礎石

## 絵図に描かれた江戸時代の辰巳用水

辰巳用水を描いた絵図では、取水口から兼六園に至る用水全線や、部分図で幕末期の用水の実態や改修計画を知ることができるものがあり、これらの絵図を比較して辰巳用水の流路や構造の変遷をたどることができます。



金城上水新川口図(安政2年・1855) 金沢市立玉川図書館蔵

## 辰巳用水の史跡指定

辰巳用水は、金沢城および城下町の形成に重要な役割を果たしました。また、上流部の隧道を中心に江戸時代の姿が良好に残り、当時の土木技術を現代に伝える貴重な歴史資産となっています。さらに、文献・絵図や考古学調査により、近・現代に至るまでの変遷過程や管理の様子を明らかにできることから、現在も生き続ける江戸時代の代表的な用水として高い文化財的価値をもっています。

平成22年2月、上流部・中流部を中心に延長約8.7kmを国史跡として指定し、貴重な文化財として恒久的に保護していくことになりました。

指定の名称 辰巳用水 附 土清水塩硝蔵跡

指定年月日 平成22年2月22日  
(追加指定 平成25年3月27日)

所在地 石川県金沢市

指定面積 辰巳用水 147,218.81㎡  
土清水塩硝蔵跡 32,426.06㎡

所有者 国、石川県、金沢市、個人

文化財管理者 金沢市

### 【注意事項】

- 辰巳用水遊歩道は常時通行できますが、その他は民有地などであり、立入はご遠慮ください。
- 史跡内での喫煙など火気の使用はご遠慮下さい。
- ごみは各自お持ち帰りください。

【協力】辰巳用水土地改良区

【編集・発行】金沢市 文化財保護課

石川県金沢市広坂1-1-1 TEL076(220)2469

平成29年9月 発行

# 辰巳用水

国史跡

つげたりつっちょうずえんしょうぐらあと

附土清水塩硝蔵跡

金沢市

# くにしせき たつ み よう すい 国史跡 辰巳用水

つげたり つちょうずえんしょうぐらあと  
附土清水塩硝蔵跡

## 辰巳用水の沿革

辰巳用水は、金沢城の水利改善を主な目的として加賀藩が造営しました。この用水により城内および城下の防火機能が向上し、水堀化により城の防備がより強固になりました。また、城内庭園の泉水供給も大きな役割の一つでした。

用水は、早い段階から沿線の灌漑に利用され、新田開発が促されました。

設計・施工は小松の町人板屋兵四郎を登用し、寛永9年(1632)に一年足らずで完成したと伝えられています。

犀川上流に設けられた取水口は、当初雉(又は鷄)口でしたが、江戸時代後期に約130m上流の古川口、さらに幕末の安政2年(1855)には約500m上流の東岩に移され、用水は上流側に延伸されました。辰巳用水は兼六園の霞ヶ池や曲水の水源となっています。五郎兵衛新田用水(長野)、玉川上水(東京)、箱根用水(神奈川)と並び「日本四大用水」の一つとされています。



東岩



雉(又は鷄)口跡

## 伏越の理

辰巳用水の導水技術として、隧道と並び高く評価されるのが、「伏越の理(逆サイフォン)」という原理です。これは、兼六園側から木管(後に石管に改修)を埋設して標高の低い石川門前の土手内を通り、対岸高台にある城内二の丸まで揚水するしくみで、江戸時代初めの優れた土木技術水準を示すものです。

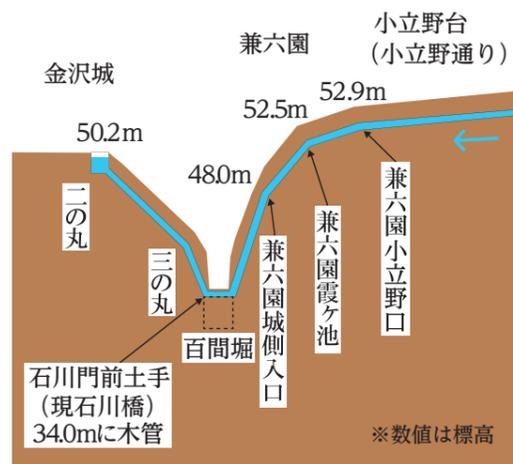
また、辰巳用水(東岩～兼六園)の平均勾配は、10m進んでわずか4cmと緩やかで、きわめて高い測量技術をもっていました。



石管



赤線は史跡範囲



「伏越の理」のイメージ

## 上流部

ずいどう

### 隧道

上流部は、江戸時代の状態を最も良好に残しています。東岩取水口を起点とし、犀川浄水場に至る延長約4.8kmの区間のうち約4.6kmが丘陵斜面の岩盤層を掘った隧道(トンネル)となっており、幅約1.7m、高さ約2~2.6mで、断面が馬蹄形をしています。



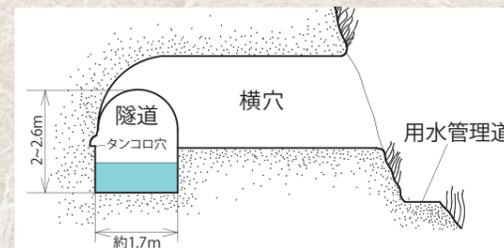
よこあな

### 横穴

隧道の壁面には約20~30m間隔で横穴が開いています。この横穴は、隧道内の出入りや土砂の搬出、採光、換気に使われ、隧道工区を分割することにより工期短縮を実現させたと考えられます。

### タンコロ穴

隧道内の壁面にはノミ跡のほか、水路底から約1~1.5mの高さに照明具を設置するための「タンコロ穴」と呼ばれる約10~20cmのくぼみが、約1.2~1.5m間隔で設置されています。



ノミ跡とタンコロ穴

### 三段石垣

上辰巳町付近には、三段石垣に代表される延長260mの石垣群が築かれています。辰巳用水が石垣最上面を流れており、付近の地盤がもろく崩れやすく、石垣前面はもともと犀川の河原だったことから、浸食を防止する施設と考えられます。



江戸時代の絵図より19世紀初めにすでに築かれていたと考えられます。

## 中流部(遊歩道)

犀川浄水場から錦町に至る延長約3.2kmで、うち2.9kmが開渠(開水路)となっており、沿線は果樹園、森林、竹林と変化します。堤部を利用した管理用道路が江戸時代から併走しています。大道割~錦町の約2km区間は、遊歩道として整備されています。



辰巳用水と遊歩道

## 下流部

錦町から兼六園に至る延長約3.0kmです。沿線は、昭和30年代から都市化が進み、一部を除き暗渠(蓋がされた水路)となっています。

兼六園付近の石積み開渠は、隣接する土堀等とあいまって、城下町の伝統的都市景観を形成しています。



土堀と辰巳用水